



岐阜県政記者クラブ加盟社各位

解禁	ラジオ・テレビ・インターネット	12月22日(金)	17:00
	新聞	12月23日(土)	朝刊

令和5年12月20日(水) 岐阜県発表資料			
担当課	担当係	担当者	電話番号
体育健康課	学校体育係	江川 秀文	内線 8717 直通 058-272-8768 FAX 058-278-3542

## 令和5年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査 岐阜県の調査結果について

このことについて、下記のとおりお知らせします。

### 記

- 1 実技に関する調査の結果について〔※数値や結果は公立学校のみ、詳細は別紙参考資料のとおり〕  
＜8種目の体力合計点の県平均値と全国順位＞

区分	H29		H30		R1		R3		R4		R5		
	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	合計点	順位	
小5	男子	54.03	24	54.00	27	53.35	27	51.80	37	51.49	40	52.21	36
	女子	55.85	23	55.98	26	55.40	30	54.30	33	53.99	35	54.19	31
中2	男子	42.88	15	42.76	24	42.10	20	41.49	28	41.62	20	41.59	34
	女子	51.00	11	51.39	15	51.01	14	48.84	31	47.85	24	47.90	17

\* 体力合計点の算出…8種目の得点(10点満点)を合計する。

\* 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、調査を中止した。

## 2 調査の概要について

### (1) 調査の目的

- ①子供の体力等の状況に鑑み、国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ②各教育委員会、各国公立私立学校が全国的な状況との関係において自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組みを通じて、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- ③各国公立私立学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康に関する指導などの改善に役立てる。

### (2) 調査の対象とする児童生徒

各国公立私立学校の以下の学年の全児童生徒を原則とする。

#### ①小学校調査

小学校第5学年、特別支援学校小学部第5学年

#### ②中学校調査

中学校第2学年、中等教育学校第2学年、特別支援学校中学部第2学年

ただし、特別支援学校及び小・中学校の特別支援学級に在籍している児童生徒については、その障害の種類や程度等を考慮して、参加の是非を適切に判断

### (3) 調査事項

#### ①児童生徒に対する調査

ア 実技に関する調査(以下「実技テスト」という。)

(ア) 小学校調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ソフトボール投げ

(イ) 中学校調査

[8種目] 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走(男子1500m、女子1000m)、20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ  
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択

イ 質問紙調査

・運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

・子供の体力向上に係る取組等に関する質問紙調査

③教育委員会に対する質問紙調査

・子供の体力向上に係る施策等に関する質問紙調査

(4) 調査実施日(実施期間)

令和5年4月から7月末までの期間

(5) 調査校数及び人数〔※参加学校数には、実施可能な児童生徒が在籍する特別支援学校を含む〕

		参加学校数	参加人数
小5	全国	18,918校	約99万人
	岐阜県(公立学校)	356校	16,265人
中2	全国	10,021校	約92万人
	岐阜県(公立学校)	184校	15,524人

3 今年度の主な特徴(前年度比)

(1) 実技テストの状況(参考資料P1、2、3、4)

- ・体力合計点は、小学校は若干の向上、中学校は横ばいとなった。
- ・小学校男子は、「握力」以外すべての種目で記録が向上した。
- ・小学校女子は、「握力」「立ち幅跳び」以外の種目で記録が向上した。
- ・中学校男子は、「握力」「20mシャトルラン」「ボール投げ」以外の種目で記録が向上した。
- ・中学校女子は、「上体起こし」「20mシャトルラン又は持久走」「立ち幅跳び」以外の種目で記録が向上した。
- ・小学校男女、中学校男女ともに、「長座体前屈」「反復横跳び」「50m走」「ボール投げ」の記録が全国平均と同等、又は上回った。
- ・小学校男女、中学校男子は、令和4年度より総合評価A・B群の割合が高くなった。

(2) 1週間の総運動時間(参考資料P5)

- ・小学校男女、中学校男女ともに、1週間の総運動時間が低下した。

(3) 生活習慣等に関わる項目(参考資料P6、7)

- ・小学校男女、中学校男女ともに、「学習以外のスクリーンタイムが2時間以上」の割合が高くなった。
- ・小学校男子、中学校男女は、肥満傾向の割合が低下した。
- ・小学校男女、中学校女子は、「朝食を毎日食べる」割合が低下した。

(4) 体育・保健体育の授業に対する意識(参考資料P8、9)

- ・小学校男子は、「運動が好き」「体育の授業が楽しい」と回答した割合が高くなった。
- ・学校に対する質問において、体育・保健体育の授業では、目標を示す活動、ふり返る活動、助け合う活動などを「いつも取り入れている」と回答した学校の割合が、全国平均と比べて高い。

- ・新型コロナウイルス感染症の対策が緩和されたことに伴い、体育の授業や日常生活がコロナ禍以前に戻り、運動の制限などが無くなったため、体力合計点が横ばい又は若干の回復傾向を示したと考えられる。
- ・新型コロナウイルス感染症による生活習慣の変化により、スクリーンタイムの増加や、1週間の総運動時間の減少が見られ、日常生活で運動に親しむ機会が減少していると考えられる。
- ・1週間の総運動時間が420分未満の児童生徒の割合が全国平均に比べて高く、学校の体育・保健体育の授業以外で運動する習慣が身に付いていないと考えられる。

#### 4 今後の体力向上に向けた取組み

児童生徒が進んで運動に親しむことができる環境の整備や、教職員が体育・保健体育の授業改善を図ることで、運動できる場や運動する時間を確保し、運動が好き、体育が楽しいと感じる児童生徒を増やし、運動習慣の定着を図る。

##### (1) 授業における取組み

- ・個に応じた指導の充実を図るために、運動が苦手と感じる児童生徒に対する手立てや体育・保健体育の授業における効果的なICTの活用方法などを研修や講習会で広めることによって、「運動が好き」「体育が楽しい」と感じる児童生徒を増やす。
- ・体育・保健体育の準備運動や休み時間などにおいて、仲間と手軽に楽しみながら取り組むことができるアクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）<sup>(\*1)</sup>等の運動遊びを積極的に導入し、学校生活の中で児童生徒自ら運動に親しむ資質・能力を育む。

##### (2) 授業外における取組み

###### ◆チャレンジスポーツinぎふ<sup>(\*2)</sup>

- ・体育・保健体育の授業以外においても運動時間を確保するために、仲間と一緒に大縄跳びやボール運動に取組んだり、目標をもって運動に取組んだりすることができる「チャレンジスポーツinぎふ」を多くの児童生徒が活用できるようにすることで運動を習慣化させ、体力向上を図る。

###### ◆ぎふっこダンスフェスティバル

- ・児童生徒がダンスを創作して踊るという活動を通して、仲間と作品を創り上げる楽しさや運動の楽しさを味わうことで、運動に親しむ資質・能力を育む。

##### (3) 教職員への周知及び研修

- ・各地区で体育担当教員や体育主任などを対象にした講習会や研修会を実施し、児童生徒の体力の状況及び分析等を周知するとともに、自校の実態を正確に把握し課題を明確にした上で、体育・保健体育の具体的な授業改善や運動時間を確保するための方策を立て、体力向上を推進する。
- ・運動遊びを先進的に実践している教職員等を講師に、積極的に運動遊びを取り入れた授業を学ぶことのできる講習会を実施する。
- ・「チャレンジスポーツinぎふ」を活用した体力向上の取組みについて、具体例を講習会等において紹介する。

###### \*1 アクティブ・チャイルド・プログラム（ACP）

- ・日本スポーツ協会が、子どもたちの発達段階に応じて身に付けておくことが望ましい動きを習得する運動プログラムとして開発したもの。

###### \*2 チャレンジスポーツinぎふ

- ・8の字跳びやチームジャンプ、ボールパスリレーなどの運動を、学級や学年、又は学年の異なる集団で取組み、記録をWeb上で競い合う。それらの運動を通して、仲間と運動することの楽しさや記録向上の喜びを味わわせ、主体的に運動に親しむ習慣を育み、児童生徒の体力向上を図る。